

会報

◇史学会総会

五月二十八日(土)、C棟一〇二教室において、第十二回奈良大学史学会総会が行われた。一九九三年度の事業・決算・会計監査報告が行われ、次いで一九九四年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九九四年度の役員は次のとおり。

▽会長 守山 記生

▽副会長 松山 宏

▽教員委員

(監査) 堀内 一徳、青木 芳夫

(編集) 菅野 正

(庶務・会計) 明石 岩雄

(庶務・交換) 森田 憲司

▽学生委員

(代表) 中村淳一、(副代表) 谷淳子、(渉外・交流) 崎原

盛俊、青木慶久、飯森康弘、成田雄毅、安藤聡美、井口麻衣、上田英志、帯金鈴子、田中康大、中村光恵、羽賀由佳、(書記) 佐藤晶子、橋本香織、井上理子、加藤克郎、菅原大輔、藤原夏来、(総務) 上木輝康、池内幸介、井上妹子、佐藤嘉亮、角之上千歳、西田クミ子、長谷川智彦、安本稔行、吉田亮三、(編集) 山口定則、上井谷修、田上晃、塗師村友恵、秋山亮、生田忠士、井畑明美、下山聡美、竹内誠、西澤敏昭、花沢一秀、山本和幸、山内政治、大平大介、川島一晃、菅原信道、永野勝章、藤井勝大、榎田一步、五谷義一、鴨狩幸子、高木美江、佐々木美佳、浅場みちる、前久保宏江、森澤弘之、北岸昭人、京谷裕彰、菅野谷俊英、松島逸彦

◇特別講義

五月二十八日(土)、史学会総会にひき続き、奈良大学史学科・史学会共催の特別講義が行われた。講師・演題は次のとおりである。

正倉院管理事務所長 米田雄介氏

「正倉院宝物の成立について」

京都橘女子大学元教授 杉村和子氏

「フランス女性史研究あれこれ」

◇現地見学会

本年度の春季現地見学会では、五月二十二日(日)に新薬師寺・元興寺・白毫寺を散策した。この日は近鉄奈良駅に集合し、各寺で寺の人による興味深い話を聞くことができた。

また、秋季現地見学会では、この企画はじめての京都市内ということで、清水寺・三十三間堂・養源院へ行った。

本年度の現地見学会はどちらも、多くの参加者を迎え、企画の段階においても、とくに京都市内がはじめてということ苦勞はしたものの、見学会終了後は大好評であった。

◇定期講習会

史学科にふさわしい内容をもったビデオ(映画・ドキュメンタリー等)をとりあげ、企画者による発表・ビデオ上映を行い、それに関する質疑応答がかわされた。本年度は、六月十一日(土)に『マルコムX』を、十月十五日(土)に『シンドラーの素顔』(ドキュメンタリー)をテーマに開催した。さまざまな意見がかわされ、かなりの好評を得た。

◇卒論中間報告会

十一月十二日(土)、十九日(土)の二週にわたって第十

一回卒論中間報告会がC棟二〇三教室において行われた。多くの学生が参加し、熱心に報告を聴いていた。また、質疑応答も活発であった。

本年度の報告者と論題は次のとおりである。

〇十一月十二日

吉田 昇司「陳朝建国と任侠集団」

大久保勝行「正長、永享期の大和の土一揆」

石垣 智和「三・一運動についてー民族代表の活動ー」

〇十一月十九日

山本 祥子「アンジュール帝国の成立とその解体」

成田阿貴子「富山売薬ー和漢薬から洋薬へー」

梶原 悟「近世における朝鮮人捕虜の歴史的役割について」

いて」

竹中 裕昭「渤海が高麗と自称したことについて」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とする「史学会会報」であるが、本年度は前・後期合わせて六回発行した。また、例年にひきつづき一年次生を対象にした小冊子「歴史学への扉」及び「講読紹介」を発行し、より充実した内容となった。

◇第七回史学科中国研修旅行

奈良大学文学部史学科では、昨年度に引き続き、第七回目の中国研修旅行を、堀内一徳・森田憲司の両教員の引率で、次の日程で行なった。

三月 六日 大阪から北京へ。北京泊。

三月 七日 北京（故宫博物院、天安門広場、天壇、琉璃廠、梨園劇場）。北京泊。

三月 八日 北京（雍和宮、首都博物館、長城、居庸関）。北京泊。

三月 九日 北京（鼓樓）から杭州（杭州碑林）へ。杭州泊。

三月 十日 杭州（六和塔、西湖、岳王廟、靈隱寺、官窯博物館）。杭州泊。

三月 十一日 杭州から成都（武侯祠）へ。成都泊。

三月 十二日 成都（都江堰、青城山）。成都泊。

三月 十三日 成都（杜甫草堂、青羊宮、隋唐窯址文物保管所、成都市博物館、成都動物園）。成都泊。

三月 十四日 成都（文殊院、王建墓）から上海へ。上海泊。

三月 十五日 上海（豫園、上海博物館、南京路）。上海泊。

三月 十六日 上海から大阪へ。

なお、九五年春には、第八回として、西安・解州関帝廟・洛陽を訪問する計画が進行中である。

◇会員動向

○青木芳夫氏（西洋近現代史担当）は、奈良大学在外研修制度により三月二十一日から八月三十一日までの間、ペルー国立中部大学大学院（人類学）に研究教授として所属しながら、オーラル・ヒストリーの調査に従事した。

○松山 宏氏（日本中世史担当）は、春ブータンに行き、中央・地方をとわず同一敷地内に行政府と寺院が同居しているのに興味をもった。夏オランダとベルギーに行き、今なお十五世紀の姿をとどめる市庁舎を中心にギルドが並び、広場をつくっていることに感銘をおぼえた。

○水野柳太郎氏（日本古代史担当）は、「日本古代の寺院と史料」によって九四年一月十日付で、名古屋大学より博士（歴史学）の学位を授与された。

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、八月十九日から二十四日まで、中元節の行事参観と資料収集のため、台湾（台北・台南）を訪問した。また、八月三十一日から九月十一日まで、各種図書館と史蹟の参観、資料収集のため中国を訪れ、北京市に滞在した。

平成五年度史学科卒業論文題目

〔日本史〕

いわゆる藤四子体制について	木原菜保子	遷都をめぐる政治情勢 伴善男について	本田 知久
宇佐八幡神託事件について	上田 哲也	国分寺創建詔の検討	前島 律子
内臣・内大臣に関する一考察	酒井 大地	『統日本紀』僧伝考	宮川 修成
大嘗祭の成立について	鈴木 貴重	―高僧伝を中心に―	宮下 直也
藤原不比等について	高村奈津子	天武・持統朝における律令の編纂	村田 和世
古代貨幣に関する一考察	武井 美和	いわゆる不改常典について	和田 真一
奈良時代官僚任命の様相について	辻本 晃	宮城十二門考	
藤原氏伝世の封戸について	中村 直臣	親鸞の布教活動	☆ ☆ ☆
日本書紀に見える日付の検討	橋口 祥子	―関東への布教とその足跡―	鮎谷 康子
将門記の諸写本の検討	長谷川祐一	足利義昭について	稲葉 幸司
遣唐使に関する一考察	濱渦 章江	―織田信長との対立を中心として―	岩本 和記
遣新羅使考	藤岡 啓史	武田勝頼について	
―百濟の役後と延暦期に於いて―		―軍法と軍役規定―	岩本知恵美
参議制について	藤岡 史江	中世因幡国と山名氏	
仏教伝来について	藤川 直也	―山名時氏の半生の考察―	
藤原鎌足について	藤原 将洋	小早川氏の瀬戸内海進出について	小原 貴和
光明皇后論	古谷 智美	―その方法と背景―	
		織田信長の入京における松永久秀の動向	勝矢 吏

永祿四年（一五六一）の川中島合戦について

川端 実

戦国期の奥丹波

山下 泰

―上杉謙信の妻女山布陣を中心に―

関東申次西園寺氏の動向

河邊真理子

―明智光秀の丹波攻略過程における奥丹波勢の行動について―

―関東申次と皇位継承のかかわり―

本能寺の変以後の政治的影響

佐々木純一

坂本龍馬の動向と幕末の情勢

山田 幸宏

豊太閤の姓名について

佐藤 秀行

―和人独立政権確立に伴った諸問題の考察―

源義経の栄光と悲劇

須々美宏枝

江戸時代における朝鮮通信使と庶民

因幡 秀

―武家政権確立期に生きた武将―

戦国時代の斎藤氏について

中嶋 俊治

―庶民の通信使観について―

荒木登志子

―斎藤道三を中心にして―

鎌倉期における医療について

中村 吉男

江戸時代の京都の医者と医学について

生澤 実華

室町・戦国期大和国東山内北部の様相

永井 隆之

農書にみる「稼ぎ」の近世的展開

小笹 由加

―狭山氏の動向を中心に―

鎌倉初期の伊予国の河野氏

西森 一博

近世初頭における幕政史と姫路藩について

亀山 貴史

信長の茶道観

平野 貴充

近世中期以降における巨椋池と民衆の生活

川本 哲也

北条時宗の家督相続をめぐる

福島 孝子

―ええじゃないか―騒動における民衆の行動と意識

木村 恵子

―文永九年二月騒動について―

中世における猿楽座の変遷

初井 雅代

―膳所藩郡方日記からみた草津宿の生活―

久米 幸子

―観世座の動向を中心として―

武田勝頼の戦法をめぐる

森田 育浩

近江商人の経営と店員組織について

黒田 英樹

―天誅組の尊王論とその実践行動について―

幕末期の民衆の政治的位置

沢井 和寛

―小林 將高―

和寛

近世後期における庶民の旅について

関 伸一郎

近世の淀川水運における過書船の役割

高田 彰史

藤枝宿における助郷村の特徴とその役割について

多々良典秀

瀬戸内海における江戸時代海難とその対策

田村 泰宏

寛延二年百姓一揆からみる姫路藩の農民支配

津志 始

赤穂藩の塩専売制度について

堤 浩二

織田政権下における豪商今井宗久の活動

中原 和久

近世都市における塵芥とその対策について

永井 由子

近世後期における江戸庶民の政治意識について

坂東 俊彦

近世後期における石門心学の庶民教化について

藤原伊奈美

奈良・井上町の町内構造について

松井 智

『井上町中年代記』をもとに

近世社会確立期における大和国の無足人

三村多香子

近世の盗賊取り締まりにおける政治と民衆

安井 卓也

刑罰を中心として

京都における大名屋敷の機能と構造の歴史的展開

山田 和市

☆ ☆ ☆

奈良県における青年団

奥田 直司

近代青年団の誕生と発展

航空機開発

上村 知基

昭和前期

コルベ神父の長崎滞在における活動

葛島 和幸

信州の分県・移庁問題について

斎藤 崇

明治二十年代の分県・移庁運動を中心に

浜松合併史

渋谷 正樹

昭和期における国民意識の変化

瀬 徹

マスコミのボクシング報道を通して

奈良県の再設置運動について

田中 志保

政党のつながりを中心として

米騒動の都市型(第二段階)の展開

二宮 美鈴

大阪を中心として

二・二六事件の再評価

平松 一也

藤原彰説批判を中心として

農地革命の成立と進行

堀 健太

大正・昭和初期の新教育運動における教員問題

大分県を中心として

榎島 啓晃

第二次世界大戦終結における民衆のイデオロギー転換

牧田 留美

渤海国の発展における周辺諸国との関係
魏晋期における神仙思想について

本田 義武
松中 成介

学制について

松本 千浪

— 神仙家葛洪の抱朴子外篇をとおして —
張士誠について

本山 由希

〔東洋史〕

唐末藩鎮について

芦川 典央

— 元代の塩政と塩徒の反乱 —
清代における食肉業

八木由美子

— 河朔三鎮の牙軍を中心としての一考察 —

則天武后の権力形成の過程

安業 真紀

魯迅研究

大木 周子

唐代の麁仏について

石黒智香子

— 思想形成をめぐって 進化論とその崩壊 —
清代における白蓮教徒の反乱

小林稚枝子

王莽政権の思想的背景

井上 直

豊臣秀吉の出兵と朝鮮

鈴木 洋

唐代辺境の軍制

岩間 未起

— 擧われた、ある朝鮮儒学者を追って —

鈴木 洋

— 開元前後の西州を中心に —

中国古代の商人

植田 喜憲

近代以降の東アジアにおける客家についての研究

田川 博章

後漢末魏晋期における郷里社会の再構成

奥田 雅也

現代の中国共産党の政治体制について

谷口 祥規

方臘の乱の性格

各務 浩子

— 全国代表大会の方針を中心に —

谷口 祥規

西晋の宗室と軍隊との関係について

角谷 英紀

清朝時代の新疆

戸田さおり

漢代の刑罰について

加納 塔子

— 和卓の動きを中心に —

戸田さおり

— 文帝の刑法改革を中心に —

唐の中央政治制度

上内和花子

現代におけるシンガポール華人の社会的役割

西城戸健二

明末清初の奴変

西尾 尚子

戊戌政変について

林 忍

中国の計画経済の開始と社会主義的改造

福井 浩

―農業における社会主義的改造―

―女性市民とヘタイラの関係について―

川村 佳子

中国近代社会における茶業について

万代 恵

―清末輸出茶の構造―

ノルマン征服とケンブリッジシャーにおける所領形成について

澤井 正平

清朝中期のキリスト教に対する政府の対策について

持井 大

―雍正帝と乾隆帝の政策―

―ドゥームズデイブックの分析から―

田中 俊也

如意と林檎

夜久ひとみ

―清代北京の婚姻習俗にみる満族文化の一考察―

古代世界における鉄の発見と製鉄技術の発達

谷岡記久子

清末における学制変革について

山中 靖代

―学堂章程にみる教育内容とその反応―

ローマの政治について

中野 善

〔西洋史〕

ローマ帝国滅亡についての原因論

阿佐伊和代

ガリア戦記

井田 美子

―ローマがガリアに与えた影響―

エジプトと東南アジア・中南米の古代遺跡の比較

橋本 隆弘

十字軍

伊藤久二洋

―テンプル騎士団の起こりと滅亡について―

共和制末期におけるユリウス・カエサルの業績

原口やよい

古代ギリシアにおける神話と社会

大菅 敬子

古代エジプト人と宇宙観

岡村早希子

―古代文明における歴史と天文の関わりあいについて―

絹をまとったローマ人

福元 隆史

古代ギリシア人の生活文化

小野真由美

パンとサーカス

藤田 宜久

ペルシア戦争

堀田 聡

ゴート族の活動

古代ギリシア神殿と市民生活

古代ギリシアの祭儀について

古代エジプトの宗教

—その民族性と風土との関わり—

古代オリンピック

☆ ☆ ☆

ドイツ農民戦争

フリーメイソンの形成

—近代ヨーロッパを中心にして—

十七世紀におけるオランダ絵画の展開

ドイツの宗教改革

イギリスにおける封建王政の形成

モンターニュ派の独裁について

フェリペ二世の外交政策

ゴシック教会堂の成立と発展

聖職叙任権闘争

☆ ☆ ☆

アメリカ黒人について

—黒人問題の歴史的考察—

金をめぐるオーストラリアの歴史

松木和佳子

椋田 淳子

森口 直子

吉村 孝治

岡本 将一

木下 昌江

河野 紫

田中 文士

永井 愛子

林 真知子

前田 美穂

松原 耕一

横田 篤子

大橋久美子

下井田史朗

スペインによる征服とペルー社会

アメリカの演劇における一九二〇年代

マヤの宗教

インカの王政

—過去のつながりとオリジナル—

大戦前夜の日米交渉

ラス・カサスとラテンアメリカ植民地

—インディアスにおけるラス・カサスの植民地計画について—

マヤ文明について

—暦と神話—

メソアメリカ社会と宗教

ブラハの春

ワイマール文化について

〔考古学〕

道祖神の研究

「當麻氏」と「當麻」

腕輪形石製品の研究

考古学におけるコンピュータの利用

—多変量統計解析による前方後円墳の形態研究—

高木 友美

垂井 新吾

土井みゆき

藤井 文生

藤岡 匡子

北條 直久

増山 健司

松本 葉子

山岡 健一

渡邊 美鶴

伊藤 真輝

安藤美由紀

大西 健吾

山田 敦範

受贈雜誌及び圖書 (自一九九三年十一月
至一九九四年十一月)

雜誌

アカデミア (南山大学) 人文・社会科学編 第五八一六

〇号

アジアアフリカ言語文化研究 (東京外国語大学アジアアフ

リカ言語文化研究所) 第四六、四七号

アジア研究所紀要 (亜細亜大学アジア研究所) 第二〇号

アジアフォーラム (大阪経済法科大学アジア研究所)

第八、九号

愛大史学 (愛知大学文学部史学科) 第三号

愛知大学史紀要 第一号

愛知大学総合郷土研究所紀要 第三九輯

愛知大学文学論叢 第一〇三―七輯

岩手史学研究 (岩手史学会) 第七七号

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九九一年度、一九

九二年度

お茶の水史学 (お茶の水女子大学読史会) 第三七号

大阪市立大学東洋史論叢 第一〇号

大津市歴史博物館研究紀要 第一号

海南史学 (高知海南史学会) 第三二号

学習院大学史料館紀要 第七号

神田外語大学日本研究所紀要 第一号

漢学研究通訊 (漢学研究中心) 第二二卷第一、二期

キリスト教史学 (キリスト教史学会) 第四八集

吉備地方文化研究 (就実女子大学吉備地方文化研究所)

第六号

紀尾井史学 (上智大学大学院史学専攻院生会) 第一三三号

京都市歴史資料館紀要 第一一〇号

京都橘女子大学研究紀要 第二〇号

ぐんま史料研究 (群馬県立文書館) 第一一三三号

皇学館史学 (皇学館大学史学会) 第九号

堺研究 (堺市立中央図書館) 第二四号

史苑 (立教大学史学会) 第五四卷第一、二号

史学 (三田史学会) 第六三卷第三、四号

史観 (早稲田大学史学会) 第一三〇、一三二冊

史聚 (史聚会) 第二八号

史泉 (関西大学史学・地理学会) 第七八、七九号

史艸 (日本女子大学史学研究会) 第三四号

史窓 (京都女子大学史学会) 第五一号

史叢（日本大学史学会） 第五一、五二号

四天王寺国際仏教大学紀要 短期大学部 第三四号

四天王寺国際仏教大学紀要 文学部 第二六号

資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二二号

秋大史学（秋田大学史学会） 第四〇号

就実女子大学史学論集 第八号

上智史学（上智大学史学会） 第三八号

信大史学（信大史学会） 第一八号

人文論集（静岡大学人文学部社会学科・言語文化学科学研究

報告） 第四四号の二

住友史料館報 第二五号

西洋史学報（広島大学西洋史学研究会） 第二一号

西洋史学論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第一五号

聖心女子大学論叢 第八二集

専修史学（専修大学歴史学会） 第二六号

双文（群馬県立文書館） 第一一号

創価大学人文論集 第六号

高円史学（高円史学会） 第一〇号

千葉史学（千葉歴史学会） 第二三、二四号

中央史学（中央史学会） 第一七号

地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第二三号

近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第五号

津田塾大学国際関係研究所報 第二八号

土浦市立博物館紀要 第五号

敦賀論叢（敦賀女子短期大学） 第八号

帝京国際文化（帝京大学文学部国際文化学科） 第七号

帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第九号

富山県立山博物館研究紀要 創刊号

東北学院大学東北文化研究所紀要 第二六号

東洋大学文学部紀要 第四七集 史学科篇一九

東洋文化学科年報（追手門学院大学文学部東洋文化学科）

第八号

徳川林政史研究所研究紀要（徳川黎明会） 第二七号

栃木史学（国学院大学栃木短期大学史学会） 第八号

寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第三九号

鳴門史学（鳴門史学会） 第七、八号

二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第八号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二四集

二松学舎大学論集 第三七号

新潟県立文書館研究紀要 創刊号

新潟県立文書館年報 第二号

第一五号

新潟史学(新潟史学会) 第三一、三二号

富士論叢(富士短期大学学術研究会) 第三八卷第一、二

日本研究(国際日本文化研究センター) 第九集

号

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史研究室) 第

福岡教育大学紀要 第四三号第二分冊 社会科学

二六号

福岡市博物館研究紀要 第四号

日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研究科) 第一七

福岡市博物館年報 第二号

輯

佛教大学総合研究所紀要 創刊号

日本文化史研究(帝塚山短期大学日本文化史学会) 第一

文研会紀要(愛知学院大学大学院文学研究科文研会)

九一二一号

第四、五号

日本モンゴル学会紀要 第二四号

法政史学(法政大学史学会) 第四六号

年報中世史研究(中世史研究会) 第一九号

法政史論(法政大学大学院日本史学会) 第二一号

年報日本史叢(筑波大学歴史・人類学系) 一九九三

北大史学(北大史学会) 第三四号

白山史学(白山史学会) 第三〇号

御影史学論集(御影史学研究会) 第一九号

花園史学(花園大学史学会) 第一四号

三井文庫論叢 第二七号

東アジア研究(大阪経済法科大学アジア研究所) 第六号

民具マンスリー(神奈川大学日本常民文化研究所) 第二

兵庫教育大学研究紀要 第一四卷第二分冊一、二

六卷六一二二号、第二七卷一一七号

兵庫県の歴史(兵庫県史編集専門委員会) 第三〇号

明代史研究(明代史研究会) 第二二号

弘前大学国史研究(弘前大学国史研究会) 第九五、九六

モンゴル研究(モンゴル研究会) 第一五号

号

山口県史研究(山口県史編纂室) 第二号

広島大学東洋史研究室報告(広島大学文学部東洋史談話会)

鷹陵史学(佛教大学史学科研究室) 第一九号

横浜市立大学論叢 第四四卷第一、二号

横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会） 第二七卷第一

号

米沢史学（米沢史学会） 第八号

立命館史学（立命館史学会） 第一四号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一〇一、一〇二号

歴史（東北史学会） 第八二、八三輯

歴史研究（大阪教育大学歴史学研究室） 三二号

歴史研究（大阪府立大学） 第三二号

歴史と地理（山川出版社） 第四五八―六九号

図 書

伊勢神宮神官文書の世界 解説・釈文（京都大学文学部博

物館）

エロスの文化史（追手門学院大学東洋文化研究会編）

大村の時代屋（大村市教育委員会）

旧華族家史料所在調査報告書（学習院大学史料館）

改訂増補京都府立総合資料館所蔵文書解題（京都府立総合

資料館）

「輝きの復原」古墳・飛鳥の技術を求めて（大阪府立近つ

飛鳥博物館）

群馬県行政文書簿冊目録 第六集 明治期・大正期・昭和

戦前期追録（群馬県立文書館）

群馬県史収集複製資料目録 第一集 中世史部会収集資料、

近世史部会収集資料その一（群馬県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 一二 多野郡鬼石町飯塚家

文書二（群馬県立文書館）

三州渥美郡馬見塚村渡辺家文書 土地（愛知大学総合郷土

研究所）

収蔵品目録九 平成三年度収蔵（福岡市博物館）

新・伊丹史話（伊丹市立博物館）

姿をあらわした神々―神仏習合の歴史と美術（四日市市立

博物館）

一二〇〇年を探った人々―平安京研究史（京都市歴史資料

館）

近つ飛鳥写真集（大阪府立近つ飛鳥博物館）

中国における歴史認識と歴史意識の展開についての総合的

研究（研究代表者安田二郎）

奈良に関する文化地域学的研究（平成五年度奈良女子大学

教育研究学内特別経費報告書）

日本学者研究中国史論著選訳 第一一七、九卷（河合文化
教育研究所）

日本人の他界観 久野昭編（国際日本文化研究センター）

日本美術院 大正の熱き風―百年史刊行記念展Ⅳ（日本美
術院）

日本美術院百年史 第四卷、第一四卷（日本美術院）

分限帳類集上・下（柳沢史料集成第二、三卷 柳沢文庫）

豊後国香々地荘一（国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概
報 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）

平成二年度奈良女子大学教育学内特別経費（奈良文化
に関する総合的研究）報告書

防衛研究所所蔵日本のフィリピン占領関係史料目録 川島

緑編（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所）

三井文庫所蔵史料 一件書類目録（京本店等原所蔵分）

山添村史（奈良県山添村役場）

湯之奥山金山遺跡の研究（湯之奥山金山遺跡学術調査団）